



前田 正史



中村 崇

問題物質の水を介した循環について勉強する

水と生態間の問題物質の循環

RC-43

1. 代表幹事

前田正史 (東京大学 生産技術研究所 教授)
中村 崇 (東北大学 多元物質科学研究所 教授)

連絡先

木瀬真理子 (前田研究室 共同研究担当)
Tel : 03-5452-6297
Fax : 03-5452-6299
e-mail : kise@iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

製品の製造過程では、副産物が必然的に発生する。製品を使用する過程においても様々なエミッションが発生する。製品の寿命が終了した後、これを再利用するために整備調整し、あるいは解体する場合においても、再利用可能な部品・材料を回収したあとには残査がのこり、多くは経済的価値のない、あるいは負の価値を持つ不要物と見なされる。

循環型を意識した現代社会では、製造プロセス（誕生）、その製品寿命の間（一生）、また寿命終了後（永眠）の各プロセスにおいて、もし問題物質が発生するのであれば、その詳細を明らかにし、社会的に容認される形で処置することが必要である。そのような社会的解決がない限り、直列的に連鎖している物質の流れは、どこかで我々の認知不可能な形で放置されることになり、結果的に未来の危険が高まることになる。

本研究会では、たとえば微量有機有害物、少量有害物質、中量被汚染循環物（有害物を運ぶ担体）、大量工鉦業副産物として次のような物質を対象に考える。これらの物質の水を介した生態への循環について議論する。

微量有機有害物例：PCBsを含むダイオキシン類、環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）

少量有害物質例：重金属（カドミウム、クロム、水銀、鉛）、
非金属（砒素、セレン、アンチモン）

工鉦業副産物例：硫黄化合物、フッ素化合物

3. その他

- 年会費 : 30万円
- 定員 : およそ10社まで
- 運用方法 : 年2~3回の研究会を開催する

問題物質の例：余剰イオウのスタックの一部

